

整数座標の点 (x_s, y_s) から点 (x_e, y_e) までの線分を描画するプログラム片は、線分を描画は $x_d \geq y_d$ の (x 成分の差が y 成分の差よりも大きい) 場合のみを考えると、以下のとおりである。

```
int xd = xe - xs;
int yd = ye - ys;
if (xd >= yd) {
    double d = ((double)yd)/xd;
    for (int x = xs; x <= xe; x++) {
        int y = (int)(d*x + 0.5);
        drawpoint(x, y);
    }
}
```

ここで $\text{drawpoint}(x, y)$ は、点 (x, y) のピクセルを描画する命令である。このプログラムをもとに、同様の線分を描画する DDA(Digital Differential Analyzer) のプログラム (ブレゼンハムのアルゴリズム) を導く過程を考える。

- (1) y 成分の変化を整数部分 y と小数部分 e (より正確には (小数部分 - 1)) に分けて計算すると、次のようになる。

```
int xd = xe - xs;
int yd = ye - ys;
if (xd >= yd) {
    double d = ((double)yd)/xd;
    double e = -0.5;
    for (int x = xs, y = ys; x <= xe; x++) {
        drawpoint(x, y);
        e += d;
        if (e > 0.0) {
            y++; e -= 1.0;
        }
    }
}
```

- (2) (1) のプログラム片から浮動小数点数を取り除くために、 d 、 s の値を $xd*2$ 倍する。すると次のプログラムが得られる。

```
int xd = xe - xs;
int yd = ye - ys;
if (xd >= yd) {
    int d = yd*2;
    int e = -xd;
    for (int x = xs, y = ys; x <= xe; x++) {
        drawpoint(x, y);
        e += d;
        if (e > 0) {
            y++; e -= xd*2;
        }
    }
}
```

```
    }  
  }  
}
```

- (3) (2) のプログラムにおける積演算をシフト演算に置き換えるとともに、そのシフト演算を2回だけに限定し、反復する命令数も減らすことを考える。その結果、プログラムは以下のようになる。

```
int xd = xe - xs;  
int yd = ye - ys;  
if (xd >= yd) {  
    int d = yd << 1;  
    int dr = d - (xd << 1);  
    int e = d - xd;  
    for (int x = xs, y = ys; x <= xe; x++) {  
        drawpoint(x, y);  
        if (e > 0) {  
            y++; e += dr;  
        }  
        else {  
            e += d;  
        }  
    }  
}
```